

UDCBK 令和3(2021)年度 事業中間報告

1. はじめに

UDCBK は平成 30(2018)年にミッションを整理し、「UDCBK は、草津のまちづくりの推進のために、産・学・公・民が多様な価値観、個性、創造性を基礎とした知見を持ち寄り、専門家の先導的助言を得て、互いの良さを活かしつつ、長期的な見通しを持った都市デザインを構想し、必要な社会実験を行い、そのための学習と情報発信を行う」こととし、各年度の事業計画を立てて取組を進めてきた。

今年度は、南草津エリアにおける長期ビジョン策定の取り組みが進行したことや新型コロナウイルス感染の長期化などをふまえて、今後の事業展開を考えなければならない。

2. 南草津ビジョンの策定と具体化

草津市における将来の人口減少局面を視野に入れ、南草津エリアの魅力をより一層高める令和 12(2030)年度を目標年度とした「南草津エリアまちづくり推進ビジョン(南草津ビジョン)」を策定するために、昨年度、南草津エリアまちづくり推進懇話会が組織され UDCBK を事務局として5回の懇話会が開催された。また並行して令和元年度に立ち上がった UDCBK「都市と交通プロジェクト」は20年後の南草津の将来像をシナリオプランニング手法で描く市民参加のワークショップを3回開催してその成果を南草津ビジョンに反映することをめざした。

同懇話会では、南草津エリアの課題を分析したうえで、南草津ビジョンに掲げる南草津エリアの将来像を「あふれる活力と暮らしやすい環境が共生し、多様な交流が生まれるにぎわいのあるまち『南草津』」とおき、基本方針として、①大学や企業等の立地集積を生かした産官学連携による魅力あるまちづくりの推進(活力)、②豊かな地域資源を生かした安全で快適な住環境の形成と地域主体によるまちづくりの推進(住環境)、③JR 南草津駅周辺やびわこ文化公園都市周辺における拠点性の強化と適切な都市機能の配置の推進(交流)の3つの柱を掲げ各種施策を打つこととしている。

南草津ビジョンは、パブリックコメントをふまえて、令和3年(2021)10月1日に策定された。

このビジョンは、今後南草津エリアで個別事業を行う際の指針となるものである。UDCBK としては、ミッションに基づきアーバンデザイン事業としてふさわしい取組を社会実験準備事業等も活用しつつ、地域や様々な組織と連携しながら、都市計画部とともに可能なところから各種事業を取り組む必要がある。

3. 事業プロジェクト

UDCBK は、ミッションに基づいて三つの事業プロジェクトを位置づけ活動を展開している。このような形での取組は本年度で3年目となり一定の節目を迎えることから、下記に示す今年度の事業展開をふまえて年度末にまとめを行う予定である。

(1) 都市デザイン連携プロジェクト

① 南草津駅周辺の公園を中心としたまちづくり

南草津駅に隣接した南草津プリムタウンで計画されている1号公園について、居住する住民の要望や意見をワークショップなどの参加型の取組で反映し、かつ十禅寺川沿いの景観にも配慮した新しい公園づくりを令和元年度から社会実験準備事業として取り組んできた。令和2年度はコロナ禍によりかなりの制約を受けたが、第1工区町内会設立委員会に連携協力いただくなどの前進

があった。

この1号公園を市民の手で作るプロジェクトは、3年目に入り公園の具体的デザインや活用を考える段階に至っており、1号公園を日常的に利用することとなる住民と土地地区画整理組合、都市再生課と連携した取組として社会実験準備事業等の枠組みを活用して継続し、この経験の蓄積の活用を含めた今後の公園づくりに繋げることとしている。

7月20日に新しく設立された町内会役員会が開催され、社会実験準備事業の委託先の立命館大学理工学部金准教授と共に出席し、金准教授からは、これまでの取組内容と今後の予定を説明された。住民にとって魅力的な公園・公共空間づくりを検討するためのワークショップ実施に向け、学生団体 Design Factory と協力し、公園に掲示板を設置するなど、引き続き、地域住民と調整を行っている。

南草津駅周辺の公園を中心としたまちづくりを進めるために、南草津駅西口の東山道記念公園の利活用について、「みなくさまちライブラリー」を令和元年度から取り組んできた。今年度は活用した市民のコミュニティーの形成やまちの賑わい創出など人を介して新たな繋がりが生まれてきており、6月19日には草津まちづくり会主催の「ゆめほん DAY」に参加した。

また学生が授業で制作した都市建築デザイン作品の UDCBK での展示を継続して行い、多様な視点からのまちづくりを考えることとしている。8月18日に予定している第3回アーバンデザインセミナーでは、駅前の魅力的な空間づくりと題して、立命館大学理工学部阿部俊彦准教授に講演いただくが、その中で、南草津の西口駅前広場と幼老複合施設の演習成果発表を実施する。

② 南草津駅周辺の公民連携空間の利用促進

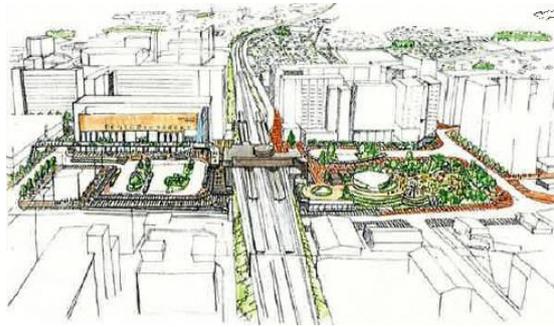
コロナ禍で屋内空間では三密が問題となるため屋外空間を利用することで安全で快適な活動ができる。多くの車中心の地方都市での駅前の公共空間は主に車の一時停車と歩行者の通過動線として利用されており南草津駅も例外ではない。駅周辺に人が留まることのできる空間が少ないとの問題意識から、人々が滞留したくなる魅力的な空間づくりを建築物の屋内・歩道にまたがる公民連携空間の利用促進により、健幸都市を標榜する草津市らしい「歩いて暮らせるウォーカブルなまち」を実現する取組を、社会実験準備事業も活用しながら新たなプロジェクトとして位置付け進めることとした。

今年度社会実験準備事業で採択された A 区分「地域と大学の連携によるウォーカブルスペースの創出～通過する駅前から歩行者の居場所への転換～」(立命館大学理工学部寶珍助手)でエリア内の市民・事業者などを対象とした現地調査、アンケート、ヒアリング等を取組んでいる。現在、下記の表のとおり、全4回のワークショップを実施することにより、地域の意見を取り入れた検討を行っている。

	開催日	内容
第1回	9月15日	パブリックスペースについて学ぼう！(レクチャー)
第2回	10月9日	南草津でお気に入りのパブリックスペースを見つけよう！
第3回	11月27日	模型を使ってアイデアを表現してみよう！
第4回	12月11日	試しに駅前で過ごしてみよう！

(2) 都市と交通プロジェクト

本プロジェクトは、令和元年度、立命館大学、滋賀県、草津市都市計画部、UDCBK で都市と交通シナリオスタディ研究会としてスタートし、初年度は準備的な議論を進め、令和2年度は、専門家のレクチャーや市民参加のワークショップなどを通じて、長期的な視点で未来の都市デザインを構



(南草津ビジョン・将来像イメージ図)

想する取組を進め、令和2年度事業報告にあるように3つのシナリオの提案にまとめるなど貴重な成果をあげることができた。

令和3年度は、3つのシナリオで対象となった南草津駅周辺の都市像をさらに精緻に検討する取組を進め、具体的な提案にまとめる学習・研究を行う。あわせて地域や市民・学生の方々に参加していただくプロジェクトづくりを進める。

(3) 大学生が住むまちプロジェクト

草津市は約 7,000 名以上の大学生が居住する都市でもあり、安全安心・快適な草津市のまちづくりにとって学生は重要な担い手でもある。オフキャンパスである地域で大学生が市民として生活し、大学生と地域の人びとが交流を通じてお互いに成長できるまちをつくることは地域の魅力を高めることに繋がる。そのための空間的仕掛けを創造していく取組を進めることは産学公民連携のプラットフォームである UDCBK にとって重要な課題である。

令和2年度は大学のキャンパス閉鎖やオンライン授業へのシフトなどで学生生活が影響を受け十分な取組ができなかったが、令和3年度は大学との連携を深めながら課題を共有し、共同の取り組みを進める。

	実施日	内容	主催者
1	6月12日 ～6月18日	Design Factory 活動紹介	立命館大学理工学部建築 都市デザイン学科 DesignFactory
2	7月6日 7月13日	立命館大学環境都市工学科2回生による まち調べオープンプレゼンテーション	立命館大学理工学部環境 都市工学科

4. 学習事業

学習事業は、オンラインでの開講・受講とUDCBKでの視聴を基本として運営する。

(1) アーバンデザインスクール(前期後期各5回)

市民と専門家をつなぐコミュニケーターを育成することを目的に、アーバンデザインの考え方や事例を専門家から体系的に学べる機会を提供し、今後のまちづくりに活かす。

前期は、令和元年度開講した「アーバンデザイン講座」の講師陣に再度協力いただき第二期を開講する。

前期	開催日	内容	参加者数
第1回 ④	6月2日	テーマ:アーバンデザインの歴史と系譜 講師:前田 英寿 氏(芝浦工業大学 建築学部 教授)	21人 内訳 オンライン 19人 UDCBK 2人

第2回 ④	7月9日	テーマ:都市空間を構想する 講師:野原 卓 氏(横浜国立大学大学院 都市イノベーション研究院 准教授)	24人 内訳 オンライン 22人 UDCBK 2人
第3回 ④	8月6日	テーマ:都市を再生する 講師:黒瀬 武史 氏(九州大学大学院 人間環境学研究院 教授)	16人 内訳 オンライン 14人 UDCBK 2人
第4回 ④	9月22日	テーマ:参加・協働の場をつくる 講師:阿部 大輔 氏(龍谷大学 政策学部 教授)	21人 内訳 オンライン 21人 UDCBK 0人
第5回 ④	10月13日	テーマ:都市景観をマネジメントする 講師:遠藤 新 氏(工学院大学 建築学部 教授)	17人 内訳 オンライン 15人 UDCBK 2人

後期は、子育てから未来に向けたまちづくりを思い描いた時、どのようなことを考えていく必要があるかという視点から、「子育てからまちづくりを考える」をテーマとして開講する。

後期	開催日	内 容	参加者数
第1回 ④	11月10日	テーマ:ドイツの子育てまちづくり 講師:遠藤 俊太郎 氏(一般財団法人交通経済研究所 主任研究員)	一人 内訳 オンライン 一人 UDCBK 一人
第2回 ⑤	12月1日	テーマ:ソーシャルビジネスとしての子育て支援 講師:中橋 恵美子 氏(認定 NPO 法人わははネット 理事長)	一人 内訳 オンライン 一人 UDCBK 一人
第3回 ④	1月15日	テーマ:子どもと子育て世代の目線から見る“まちなか” 講師:高柳 百合子 氏(富山大学 都市デザイン学部 都市・交通デザイン学科 准教授)	一人 内訳 オンライン 一人 UDCBK 一人
第4回 ④	2月18日	テーマ:参加・保育園とまちづくり 講師:後藤 智香子 氏(東京大学 先端科学技術研究センター 特任講師)	一人 内訳 オンライン 一人 UDCBK 一人
第5回 ④	3月5日	テーマ:子育て世帯が外出しやすいまちづくり 講師:大森 宣暁 氏(宇都宮大学 地域デザイン科学部 社会基盤デザイン学科 教授)	一人 内訳 オンライン 一人 UDCBK 一人

※ コーディネート：及川清昭氏（UDCBK センター長、立命館大学理工学部 特命教授）

・表中の④等は、産学公民の連携先を示している。⑤企業など、④大学など、③行政など、②市民など。

(2) アーバンデザインセミナー(年間 15 回程度)

広く市民がアーバンデザインを身近に感じることができるよう、テーマごとの相互学習の場と機会を提供する。また、その中で事業プロジェクトと連動したテーマやまちづくりに有益な話題を取り上げ、多様な層の問題や関心に応える内容を目指す。

	開催日	内 容	参加者数
第 1 回 学 公	5 月 26 日	テーマ:草津の未来につなぐ SDGs 講師:谷口 嘉之 氏(滋賀県立大学 地域共生 センター 地域連携コーディネーター)	32 人 内訳 オンライン 27 人 UDCBK 5 人
第 2 回 学 公	7 月 28 日	テーマ:みんなでつなぐ南草津の未来へ 講師:金 度源 氏(立命館大学 理工学部 環境 都市工学科 准教授)	16 人 内訳 オンライン 15 人 UDCBK 1 人
第 3 回 学	8 月 18 日	テーマ:駅前の魅力的な空間づくり 講師:阿部 俊彦 氏(立命館大学 理工学部 都 市建築デザイン学科 准教授、UDCBK 副センター長)	17 人 内訳 オンライン 11 人 UDCBK 6 人
第 4 回 学 産 公	10 月 16 日	テーマ:駅から見る未来のまちの風景 講師:北川 久男 氏(西日本旅客鉄道株式会 社 草津駅 駅長) 宇加江 哲 氏(西日本旅客鉄道株式会 社 草津駅 社員) 野口 明 氏(西日本旅客鉄道株式会 社 京都支社 地域共生室 室長) 阿部 俊彦 氏(立命館大学 理工学部 都市建築デザイン学科 准教授、 UDCBK 副センター長)	20 人 内訳 オンライン 12 人 UDCBK 8 人
第 5 回 学	10 月 29 日	テーマ:地域と大学とのつながりが生む新しいま ちの風景 講師:只友 景士 氏(龍谷大学 政策学部 教 授)	一人 内訳 オンライン 一人 UDCBK 一人

5. 社会実験準備事業

草津市が包括協定を締結する 7 大学を対象に UDCBK の提示するテーマについて社会実験の提案を準備事業として委託する。

令和 3 年度については、前年度までの枠組みを踏襲した運用をはかりつつも、募集テーマをより事業計画を補強ないし推進する内容となるよう見直した。

応募件数は 4 大学から 7 件あり、審査の結果、3 大学 5 件と委託契約を締結している。事業については、昨年度からの事業をブラッシュアップするものから、今年度からの新しい事業がみられ、それぞれが事業計画に基づいて、住民からフィードバックを得られる形でワークショップや調査等

を実施している。

今年度からは、11月末に中間報告書の提出を求め、事業の進捗管理を行う予定であるが、既にすべての事業において、UDCBK や担当課と連携が図られている。また、事業終了後は市民への成果還元のために、成果報告会(2月)および成果報告書のWeb公開をお願いする。

- * 募集要項配布：4月7日
- * 募集締め切り：5月7日
- * 決定通知：6月1日
- * 計画書修正・契約手続き期間：6月1日～6月17日
- * 委託期間：令和3年7月1日から令和4年2月26日
- * 中間報告書提出：11月30日

A 区分

単位:円

募集テーマ	応募事業名	応募大学	事業責任者名	応募額	審査決定金額
住民参加の新しい公園づくり	南草津プリムタウンの公園中心型コミュニティデザインを目指すための社会実験	立命館大学	理工学部 准教授 金 度源	300,000	272,500
歩いて暮らせるまちづくり	地域と大学の連携によるウォークパルススペースの創出～通過する駅前から歩行者の居場所への転換～	立命館大学	理工学部 助手 寶珍 宏元	300,000	272,500

募集テーマ	応募事業名	応募大学	事業責任者名	応募額	審査決定金額
健康活動を誘発する環境づくり	子育てを楽しめるまちづくりを実現するためのストレスリソースイベントの提案－育児ストレスサポートシステムの構築に向けて－	滋賀大学	教育学部 教授 大平 雅子、 教授 芦谷 道子	181,500	146,000
歴史と文化、景観の魅力を活かすまちづくり	街道を歩いて体験するAR街道博物館アプリの開発と観光への活用	立命館大学	理工学部 助教 藤井 健史	199,100	160,000
	暖簾や幟旗などを活かしたまちづくり－着なくなった着物や端切れなどの利用	滋賀県立大学	人間文化学部 教授 宮本 雅子	185,840	149,000

区分 A:2件(545,000円)

区分 B:3件(455,000円)

合計 5件(1,000,000円)

6. オープンスペース

令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、数回の閉鎖を余儀なくされ、また再開後も3密回避の措置をとっていることからスペースが制限され、従来の交流、学習、協議が著しく影響を受けている。またセミナーやスクールがオンライン形式にシフトするなどから利用についても変化が起きており、本事業のあり方を見直しが必要になってきている。また、5月28日に開催した第1回UDCBK事業運営懇話会でもオープンスペースに対する意見を多くいただいた。現在のUDCBK内のオープンスペースの在り方を“まちの広場”としてのオープンスペースを当面維持しつつも、全

国の事例も参照しながら今後の在り方の検討を進める。

7. 情報発信

UDCBK の活動を発信し、市民的理解を得ることは重要であり、令和 2 年度、報告中心のコンテンツを一定整理したが、UDCBK の基本情報およびセミナー等の企画など発信を重視した内容の改善を行うことが課題である。

従来から活用している、公式アカウントを持つ Facebook での発信に加え、現在 Instagram の導入も検討している。また、今までに学習事業等に参加いただいた方のメーリングリストを作成し、月に 1 回もメールマガジンの発行を開始した。引き続き、草津市やまちづくり協議会などの LINE や Facebook での情報発信、南草津駅デジタルサイネージや立命館大学教職員向けの掲示板なども連携・活用させていただき、関係者の協力を得ながら情報発信に努める。

●Facebook での情報発信

4 月～9 月 67 回発信（前年比 4 回増）

8. 法人化検討

平成 30 年に UDCBK 法人化検討委員会の答申を受け、UDCBK のミッションを明確にして各種プロジェクトを立上げ事業を行ってきており、法人化ワーキング部会で整理したメリット・デメリットに事業を当てはめ、組織形態など検討を継続した。

南草津ビジョンでは、同ビジョンの推進体制として「新たなプラットフォーム」が提案されており、その具体案を検討する必要がある。従来の UDCBK 法人化検討もこの「新たなプラットフォーム」を含め、継続した調査・研究を行う。また、UDC イニシアチブとも連携し、意見交換会などを通じて情報を収集していく。

9. その他

(1) 前述したように新型コロナウイルス感染症の影響により UDCBK のこれまでの事業展開が変化してきている。他方で南草津エリアの 10 年から 20 年後の将来のイメージをつくる取り組みが前進し、この成果を今後どのようにまちづくりで具体化していくのかという新しい課題がある。

after/with コロナの社会変化を注視しながら、ミッションに基づく UDCBK の今後のあり方や事業展開について、事務局で論点整理を行うこととし、「UDCBK 課題整理ブレインストーミング」現在まで 3 回開催した。今後も継続する予定であり、一定の成案をもって UDCBK 運営懇話会に報告、意見交換を行う予定である。

回	開催日	参加者
第1回	4 月 30 日(金)	センター長、副センター長、懇話会座長、総合企画部部長(副センター長)・副部長、産学公民連携調整員、UDCBK 参事、UDCBK 主任
第2回	7 月 14 日(水)	
第3回	10 月 19 日(火)	

(2) 産学公民連携による英知を組織化するため、関係者との交流・勉強会を適時開催するとともに、この間の活動の中で繋がった各団体等との連携を深め、UDCBK の各事業に結びつける取組を強化する。

今年度、昨年度のセミナーに参加いただいた企業と地域問題に関わる課題意識の共有が進み、草津市公開データの提供・地域視察などをふまえて企業・大学研究室・学生・UDCBK の共同研究へとつながっている。今後、対象地域へのアプローチをはじめ活動を継続することとしている。

また、産業界との連携事例が少なく課題であったため、UDCBK 運営懇話会や南草津ビジョン推進懇話会参加の産業界メンバーとの懇談をすすめ、新しいまちづくりに資する各種企画や調査研究につながる取組を進める。

- (3) 全国の UDC の先進的な取組に学び、全国組織 UDC ネットワークとの交流を深める。上記の都市デザイン連携プロジェクトとも関係するが、近年、エリアマネジメントの重要性が指摘されており、UDC ネットワークでも研究会が企画されている。これらの取組に積極的に参加し全国の知見を事業に取り入れる取組を進める。